

社内レポート Vol.2010

A	組版とは . . .	1
B	日本語組版の主な特徴	1
C	自動組版をする際、用いるものとして	1
D	組版とは . . .	2
E	日本語組版の主な特徴	2
F	自動組版をする際、用いるものとして	2

【A】組版とは・・・

文字や図版などの要素を配置し、紙面を構成すること。組み付けとも言う。現在ではDTP（出版物のデザイン・レイアウトをパソコンで行ない、電子的なデータを印刷所に持ち込んで出版すること。机上出版とも呼ばれている。実際には版下の作成までをパソコンで行なうことが多い。）などにおいても、レイアウトソフトを用いて紙面を作ることを指し、そういった作業を行うことを組むと表現する。原稿を元に1ページずつページアップしていく作業を繰り返して書籍を完成させる。そのため、きめ細やかな微調整など（好きなようにレイアウトすること）が随所で可能。しかし、同じ体裁の書籍を作る場合も、同じ手間がかかる。つまり、DTPによる組版は、ページ数に比例してコストがかかる。

そこで、自動組版の登場である。書籍に従ったスタイルシート（CSS、XSLなど）を作成し、それに従ってすべてのページを機械的に自動組版する。同じ体裁の書籍ならば、同じスタイルシートを適用できるため、組版のコストはほぼゼロとなる。コストはページ数とは無関係で、最初のスタイルシート開発とその保守にコストがかかることになる。また、目次や索引などのページ付けも自動的に行われるため、改定によるページずれなどを意識する必要がない。そして、スタイルシートも、取り換えるだけでなくまったく異なる体裁の書籍を組むこともできる。しかし、デメリットもある。完全自動化であるため、決まったパターンしか出来ない（融通が利かない）ため、出来上がりがイマイチということだ。印刷物の分野、対象によって実現しやすさ、効果も違う。そのため、組版でやるか、自動組版でやるかを見極めることが重要である。また、組版の中でも、日本語組版は、品質は非常に高いレベルに達し、外国からも良い評価を受けている。

【B】日本語組版の主な特徴

・行頭のきまり、句読点・括弧類の配置方法
 ①段落の最初の1文字は、全角1字分下げる。
 ②句読点の字幅自体は半角であるが、マス内に一定の空きを取ることで、結果的に全角取りで組むことになる。

③改行始めの括弧類に関しては、これらの中から選択する。

1. 全角下がりで組み、折り返しの行頭にくるものは天付き（行頭を下げない）とする。
 2. 2分下がりに組み、折り返しの行頭にくるものは天付きとする。

3. 全角半下がりに組み、折り返しの行頭にくるものは、2分下がりとする。

④疑問符・感嘆符の字幅は全角とし、文字後ろも全角アキとする（横組みの場合は2分空きが原則）。

⑤句読点と括弧類が連続する場合のアキ処理

1. 句読点の後ろに括弧類がきたときは、終わり括弧の字間はベタ組み（体裁を考えず、とりあえずテキストをスペースに流し込むこと）とし、括弧の後ろは2分アキとする。

2. 句読点の後ろにとじ括弧類がきたときはベタ組みとし、とじ括弧類のあとは原則として2分アキとする。

3. とじ括弧類の後ろに句読点がくるときはベタ組みで、句読点は後ろ2分アキ（半角アキ）とし、括弧を含む全体で全角半取りとする。

⑥括弧類が連続する場合のアキ処理

1. とじ括弧類の後ろに起こし括弧類がくるときには原則として2分アキとする。

2. 起こし括弧類の後ろに起こし括弧類が続くとき、またはとじ括弧類のあとにとじ括弧類が続くときにはベタ組みとする。

⑦とじ括弧類と中黒がある場合のアキ処理
 とじ括弧類の後ろに中黒、もしくは中黒の後ろに起こし括弧類がくるときは、中黒を全角取りにして括弧類を2分取りとする。

【C】自動組版をする際、用いるものとして

・XML…データ。
 コードなどの決まりがない。自分でタグを決めることができる。

（細かい作業はCSSで行う）

・XSL…フォーマット。

・F0…印刷物を作る

データのルールを決める

プログラムから操作しやすい

PDFを見せるために使用する

XML、XSLと一緒にF0で使うと、PDFで出力が可能。

⇒デザイン・文書それぞれ変更可能なため、便利である。

【D】組版とは・・・

文字や図版などの要素を配置し、紙面を構成すること。組み付けとも言う。現在ではDTP（出版物のデザイン・レイアウトをパソコンで行ない、電子的なデータを印刷所に持ち込んで出版すること。机上出版とも呼ばれている。実際には版下の作成までをパソコンで行なうことが多い。）などにおいても、レイアウトソフトを用いて紙面を作ること（指し、そういった作業を行うことを組むと表現する。原稿を元に1ページずつページアップしていく作業を繰り返して書籍を完成させる。そのため、きめ細やかな微調整など（好きなようにレイアウトすること）が随所で可能。しかし、同じ体裁の書籍を作る場合も、同じ手間がかかる。つまり、DTPによる組版は、ページ数に比例してコストがかかる。

そこで、自動組版の登場である。書籍に従ったスタイルシート（CSS、XSLなど）を作成し、それに従ってすべてのページを機械的に自動組版する。同じ体裁の書籍ならば、同じスタイルシートを適用できるため、組版のコストはほぼゼロとなる。コストはページ数とは無関係で、最初のスタイルシート開発とその保守にコストがかかることになる。また、目次や索引などのページ付けも自動的に行われるため、改定によるページずれなどを意識する必要がない。そして、スタイルシートも、取り換えるだけでなくまったく異なる体裁の書籍を組むこともできる。しかし、デメリットもある。完全自動化であるため、決まったパターンしか出来ない（融通が利かない）ため、出来上がりがイマイチということだ。印刷物の分野、対象によって実現しやすさ、効果も違う。そのため、組版でやるか、自動組版でやるかを見極めることが重要である。また、組版の中でも、日本語組版は、品質は非常に高いレベルに達し、外国からも良い評価を受けている。

【E】日本語組版の主な特徴

・行頭のきまり、句読点・括弧類の配置方法
 ①段落の最初の1文字は、全角1字分下げる。
 ②句読点の字幅自体は半角であるが、マス内に一定の空きを取ることで、結果的に全角取りで組むことになる。
 ③改行始めの括弧類に関しては、これらの中から選択する。

1. 全角下がりで組み、折り返しの行頭にくるものは天付き（行頭を下げない）とする。
2. 2分下がりに組み、折り返しの行頭にくるものは天付きとする。
3. 全角半下がりに組み、折り返しの行頭にくるものは、2分下がりとする。
- ④疑問符・感嘆符の字幅は全角とし、文字後ろも全角アキとする（横組みの場合は2分空きが原則）。
- ⑤句読点と括弧類が連続する場合のアキ処理
 1. 句読点の後ろに括弧類がきたときは、終わり括弧の字間はベタ組み（体裁を考えず、とりあえずテキストをスペースに流し込むこと）とし、括弧の後ろは2分アキとする。
 2. 句読点の後ろにとじ括弧類がきたときはベタ組みとし、とじ括弧類のあとは原則として2分アキとする。
 3. とじ括弧類の後ろに句読点がくるときはベタ組みで、句読点は後ろ2分アキ（半角アキ）とし、括弧を含む全体で全角半取りとする。
- ⑥括弧類が連続する場合のアキ処理
 1. とじ括弧類の後ろに起こし括弧類がくるときには原則として2分アキとする。
 2. 起こし括弧類の後ろに起こし括弧類が続くとき、またはとじ括弧類のあとにとじ括弧類が続くときにはベタ組みとする。
- ⑦とじ括弧類と中黒がある場合のアキ処理
 とじ括弧類の後ろに中黒、もしくは中黒の後ろに起こし括弧類がくるときは、中黒を全角取りにして括弧類を2分取りとする。。

【F】自動組版をする際、用いるものとして

- ・XML…データ。
コードなどの決まりがない。自分でタグを決めることができる。
（細かい作業はCSSで行う）
- ・XSL…フォーマット。
- ・F0…印刷物を作る
データのルールを決める
プログラムから操作しやすい
PDFを見せるために使用する
XML、XSLと一緒にF0で使うと、PDFで出力が可能。
⇒デザイン・文書それぞれ変更可能なため、便利である。